

# 学力向上推進地域事業 福山市立城南中学校区 研究のまとめ (南小学校, 川口小学校, 多治米小学校, 川口東小学校, 城南中学校)

## 1 中学校区でめざしたもの

### (1) 育成する力

○課題発見する力 ○対話する力 ○認める態度

### (2) 子ども像

○自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒  
○様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒

## 2 取組テーマ

子ども主体の学びづくり実現のために、子ども自身が「考え、決める、選ぶ」場を設定する

## 3 実践例

### (1) 自分が考える



○自分の考えを伝えたり、仲間の意見と照らし合わせたりするために、伝え方を考えた。  
○共通の疑問点を持つ仲間と協力するために、様々な場所で対話した。

### (2) 自分が決める



授業で身につけた、「自分で決める力」は、学校行事での「自分たちで決める力」になった。

○既習内容を掲示したり、課題の解決方法を全体で交流したりして、自ら「学びたいこと」「学び方」「学ぶ必要のあること」を決めた。



○密を避けて行える行事内容を、児童生徒が主体的に意見を出し合って決めた。手をつなぐ代わりにリボンを使った新しい入学式や、みんなでできる運動会、体育祭での演奏会など一人一人が輝ける行事を企画した。

### (3) 自分が選ぶ



○SDGsや地域の課題から取組内容を自分たちで選び、調べ、まとめた。  
○中学校区オープンスクールでは、児童自らが興味を持ち、学びたい場を選んで動いた。  
○中学校区では週に1時間、自分を見つめ、自分が探究したいことを選んで学習した。

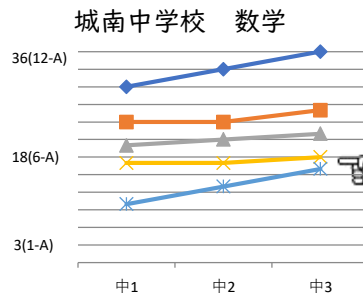
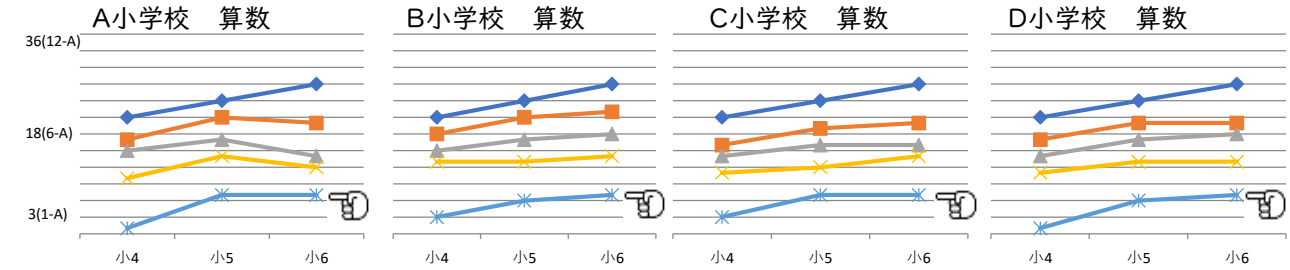
## 4 成果と課題

(1) 「学力向上アンケート」より (学力向上推進事業取組前(平成28年度)との比較)

		小学校			中学校		
		取組前	R2年度	差	取組前	R2年度	差
児童生徒	友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。	87.4%	90.5%	+3.1	76.8%	87.9%	+11.1
	解決しようとする課題について「たぶんこうではないか」と予想している。	88.4%	92.4%	+4.0	75.9%	85.0%	+9.1
	普段の生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っている。	89.0%	87.1%	-1.9	75.1%	86.2%	+11.1
教員	児童生徒が課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材したりするような指導を工夫した。	59.7%	72.6%	+12.9	45.9%	59.4%	+13.5
	児童生徒が、解決しようとする課題について予想するような指導を工夫した。	93.2%	98.4%	+5.2	86.5%	90.6%	+4.1
	児童生徒が、日常生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を活用するような指導を工夫した。	87.9%	94.5%	+6.6	83.8%	93.8%	+10.0

(2) 「学力の伸びを把握する調査」より (※1)

○5段階別学力の伸びの状況



◆ 最大値 (最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)  
■ 75%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%に当たる児童・生徒が属する学力レベル)  
▲ 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%に当たる児童・生徒が属する学力レベル)  
× 25%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%に当たる児童・生徒が属する学力レベル)  
★ 最小値 (最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

(※1) 本市では埼玉県で2015年度(平成27年度)から開始された「学力の伸びを把握する調査」を先行的に2校区で実施している。本調査は小学校4年生から中学校3年生まで経年で一一人の学力の伸びを把握することができる。出題される全ての問題に同一尺度で難易度が設定されている。

そのデータをもとに、児童生徒は自分をつけるべき力を把握することができ、教員は学力向上に効果的な指導方法を明確にし、学級経営や授業方針を立てることができる。

○支援対象児童生徒への取組

白い部分が、学力の調査範囲  
赤いラインが、個人の学力のレベルを表している。

あなたの学力レベルは、「レベル7」まで伸びました。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3
高						
↑						
学力						
↓						
低						



<学力に課題のある児童生徒への取組>

・日々の学びの姿から個別の指導計画を立てている。  
・苦手な領域の補充学習を行っている。

<家庭学習への取組>

・家庭学習用に、個別にプリントを作成する。  
・自分だけの力で学習できるように、理解度に応じた課題を設定する。  
・いつでも見返すことができるよう、家庭学習用ファイルを作成させる。

# 学力向上推進地域事業 福山市立駅家中学校区 研究のまとめ

Ekiya nishi elementary school

Ekiya kita elementary school

Ekiya junior high school

**課題**

- ①児童生徒が主体的に学ぶ授業づくり  
児童生徒の興味関心を引き出すにはどうしたらよいか。
- ②校区間・教員間の連携  
合同研修会・校内研修だけでなく、連携を密にするためにはどうしたらよいか。
- ③家庭教育支援アドバイザーとの連携  
情報交流の機会をどのように持つとよいか。
- ④研究体制の構築  
教職員が目指す児童生徒像・授業像を共有するにはどうすればよいか。

**研究テーマ**

「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」  
～子どもが「考えることが楽しい」と感じる学びあいや対話を重視した授業づくり～

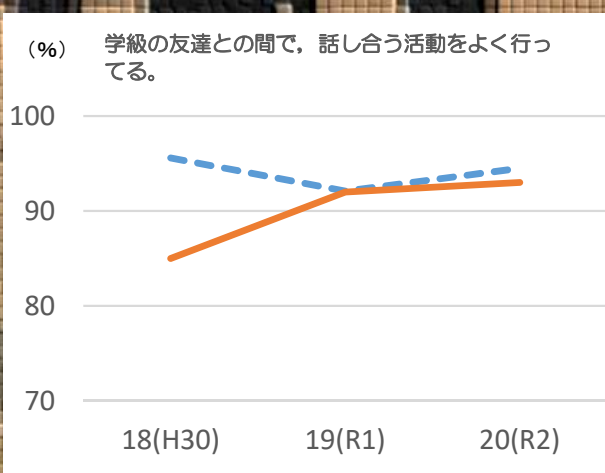
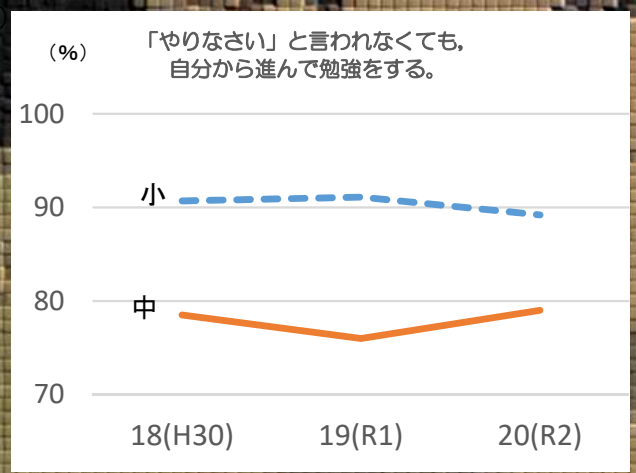
**取組**

- ①児童生徒が主体的に学ぶ授業づくり
  - ・児童生徒が思考を深めるため、思考ツールを活用した。また、思考したことをもとに、周囲と意見を交流し、学びあいや対話へと発展した。
  - ・グラフや資料から読み取ったことをもとに思考を深め、仲間と意見を交流する場を設けた。
  - ・ICTの効果的な活用方法に関する研修を行い、視覚教材の充実を図った。
- ②校区間・教員間の連携
  - ・小中一貫だより等の通信を発行した。また、通信や個別の指導計画等の具体物をもとに情報の共有を図った。
  - ・授業づくりについて交流を行い、自分の授業に活かせることを積極的に取り入れた。
- ③家庭教育支援アドバイザーとの連携
  - ・教職員は、記録ファイルの閲覧を通して、家庭教育支援アドバイザーが児童生徒へどのように働きかけているのか等を具体的に把握した。また、中学校では家庭教育支援アドバイザーが校内委員会へ参加し、児童生徒の様子を交流した。
- ④研究体制の構築
  - ・個別の指導計画の作成・活用を行い、目指す授業像をもとにした研究授業を行った。
  - ・個別の指導計画の作成に関し、特別支援の視点から「短期目標」「長期目標」を設定し、全員で取り組んだ。

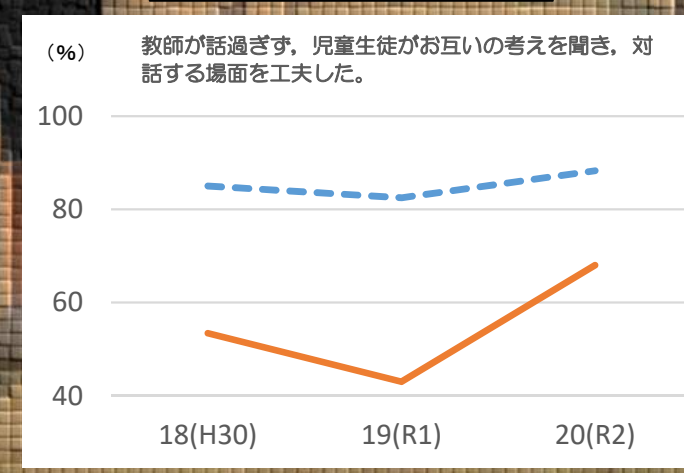
**○成果●課題**

- 仲間と考えを交流することを通して、自分の考えを再考する機会が増えた。
- 視覚教材の活用・題材の工夫などで、児童生徒の興味関心を高めることができた。
- グラフや資料から読み取り、自分の意見を述べるために、比較・分類ができるようになった。
- 授業づくりについて小中で交流し、子ども主体の学びづくりに生かすことができた。
- 小中9学年で共通した取組をより明確に設定できればよかった。
- 家庭教育支援アドバイザーが校内委員会に参加することで、支援を必要としている児童生徒の状況を多面的に把握することができた。
- 支援対象の児童生徒への取組が、そのほかの支援を必要とする児童生徒への支援にもつながった。
- 個別の指導計画を日常的に活用できるように工夫が必要である。

児童生徒アンケートより



教職員アンケートより



まとめ「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」～子どもが「考えることが楽しい」と感じる学びあいや対話を重視した授業づくり～をテーマに授業づくりや児童生徒への支援を行ってきた。思考すること・対話をすることに楽しさを感じ、自分の考えを深められる児童生徒が増えることへとつなげることができた。



## こんな課題はありませんか？

### 〈国語〉

■国語では目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて記述すること。

■国語では、文章の内容の話題や方向を捉えて、自分の考えをもち記述すること。

### 〈算数・数学〉

▼算数では、減法の計算の仕方を解釈し、除法に関して成り立つ性質を記述すること。

▼数学では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

### 〈小中共通〉

●教師主導型授業が多く、児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりになっていないこと。

●国語、算数・数学ともに、問題の意味を読み取ること、解決の見通しをもつこと、自分の考えを記述して表現すること。

●一人ひとりの課題に対応した家庭学習になっていないこと。

## 家庭教育支援アドバイザー

### 【成果】

○家庭訪問や面談を通して、保護者との関係づくりをし、困り感に寄り添いながら、子どもへの関わり方を学校と一緒に考えたり、助言や相談機関の紹介を行うことができた。医療機関の受診につなげ、課題を抱える子どもの治療の手助けができた。

○家庭訪問から家庭学習支援、登校支援という段階を経て、子どもが登校班で登校することができた。

○小中連携により兄弟関係や家庭状況を把握して、収集した情報をもとに、小中連携をスムーズに進めることができた。

### 【課題】

●先生、保護者、児童生徒と、誰でも相談できるアドバイザーとしての周知を徹底すること。

## 主体的に学ぶ授業づくり

### 〈小・中学校〉課題設定での工夫

「筆者は読み手に何を伝えたいのだろうか」「これってどういうことなのかな。」「自分の考えを友達に話したい。友達の考えも知りたい。」等と、子どもが学習課題を持ち、主体的に学習に取り組めるような導入や学びたい意欲を引き出すことを重点的に行った。

#### ■取組例（国語）

○説明文の学習では、子どもの疑問や学びたいことから読み手の問いを作り、「筆者の主張は何なのか。何を伝えたいのか。」等の問いから、次の課題が生まれ、読みが繋がった。

○学習課題を解決するために、グループやペアを作り友達との対話の中で考えの理由を明確にして読みを深め、自分達で解決しようとする中で、意欲を持って学習に取り組む姿が見えた。



#### ▼取組例（算数・数学）

○計算はできていても、文章題の立式や、なぜ式が成り立つのかを理解していく過程が子どもそれぞれに異なることを教師が理解し、なぜ除法で立式ができるのか、子どもの意見を出し合った。子どもは「～ずつ」「合わせると～」「引くと～」という言葉に反応し、読解せずに、立式のみを行っており、その様子等から、小中の教員で子どもが「わかる」ことについて協議を進めている。



### 〈小・中学校〉フリートークの実践

#### 《フリートーク》

子どもたちの主体性を促し、自分の考えを表現することへの苦手意識を克服するために、子ども同士で考えを交流したり、一人の子どもが、複数の子どもに説明したりする。フリートークの在り方は学活等で話し合い改善していく。

#### ●効果

発言する子どもが増加し、積極的に声を掛け合う姿が見られた。子どもから「友達に分かってほしい。」「分かるようになりたい。」という言葉があがり、互いに意欲的に考えを伝え合うようになった。

#### ●《教師が主導するフリートークからの脱却》

教師がタイミングや時間を設定する《フリートーク》から脱却し、子ども同士が自ら考えを交流し合う授業につなげていくことを意識した。

授業の中で、子どもが、自分の考えを自由につぶやき、そのつぶやきをもとに、自由に意見を述べ合う話し合いになるよう授業を展開した。子どもたちが自然と立ち上がり、友達同士で考えや思いを交流したり、教え合ったりすることを教師が認めていく教室にすることにより、子どもたち自らが課題を解決しようとする姿勢が見られるようになった。「主体的で深い学び」を目的とした子ども主体の《フリートーク》に移行する。



### 取組の成果

- ①定期的に研究推進教員や連携担当教員が、各校の実態を踏まえた現状や成果・課題を交流して校区研修を計画することで、教員同士が「子どもが主体的に学ぶ」ための授業づくりの実践につなぐことができた。
- ②子どもが学び始めるための発問の工夫、教師の関わり方、一人ひとりの子どもに合った家庭学習への取組を校区で行うことができた。
- ③「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。」のアンケート項目では肯定的評価が3年間で7.82%向上した。

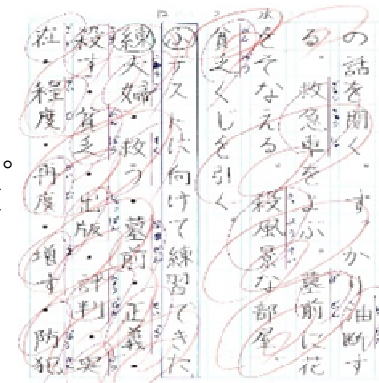
## 学習習慣の定着・家庭学習の充実

### 〈小・中学校〉主体的な家庭学習

「主体的な学び」としての家庭学習について見直した。教師が与えた家庭学習で、ページや決められた量に取り組む「宿題」からの脱却として、チャレンジ学習に取り組んだ。

#### 〈●取組例 チャレンジ学習（漢字）〉

- ①自分で今日のめあてを決める。
- ②自分でテストに向かって取り組む。
- ③自分が書いた漢字を見直し、ふり返る。
- ④自分で間違えた漢字や不安な漢字を練習する。



#### 〈成果〉

抽出児童生徒だけではなく、他の子どもも参加し、自分の「課題」に取り組んだことで、学習意欲が高まった。自分で学習量を増やしたり、内容を工夫したりすることで、課題を解決し、自らの自信につなげることができた。互いのノートを見合う機会を持つことで、新たな視点を持って学び合うことができた。

### 〈小・中学校〉学力補充の取組など

○中学校では、抽出生徒を中心に、他の生徒も含めて夏季休業中や定期試験に向けた対策として質問教室を開催した。個別の指導計画のもとに、個に応じた指導を複数の教員で実施、補充学習では、生徒が、得意な教科の教授役を担い、取り組んでいる問題について互いに話し合う等して学びが深まった。

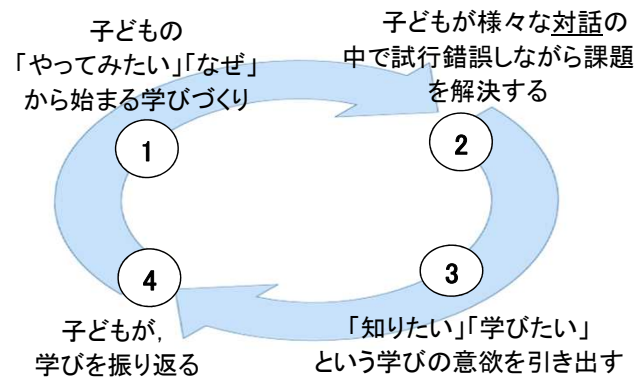
○定期試験後には、追試験を実施した。追試験を実施することによって、「生徒達が何を理解し、何が理解できていなかったのか」について、教員にも考える視点が見えた。追試験では、生徒が決められた点数をとることを目的とするのではなく、生徒が繰り返し、考えることで課題を解決しようとする姿が見られるよう補充学習の取組を継続している。

○子どもが課題を設定し、課題の解決方法についても議論した後に、検証作業に取り組んだ。生徒は、他者の考えや検証結果を共有することで、自身の考察を深めていった。



「重点取組」

主体的に学ぶ子どもの育成  
～「学び合い」のある授業を目指して～



<個に応じた取組>

- 教え合い
- パワーアップウィーク <小>
- 学びタイム <中>

<教職員の取組>

- みる・みる・みせる

個に応じた取組

小「パワーアップウィーク」★小学校で実施  
【自己エンジンをもって学び続ける子に！】

中学校の定期テスト期間に合わせて実施。期間中児童は、自分で宿題を決め、主体的に家庭学習を行う。

<子どもたちの姿>

- ・「なぜ?」「どうして?」「調べてみたいな?」からはじまる家庭学習
- ・子どもたちの「分かった!」「そうだったのか!」があふれるパワーアップノート
- ・授業でのふり返りの視点を大切にしたりふり返り⇒自分の学びをよりよく調整する

質を高める視点  
“学びが広がっているか・深まっているか”

中「学びタイム」★中学校で実施  
【自分で考え、選択し、決定する】

定期テスト発表期間中の放課後、学年ごとに教室を分けて自主学習会を実施。参加は自由。先生に質問、生徒同士で教え合い、一人で勉強...いろいろなスタイルの学習をする場となっている。

<参加した生徒の声>

普段の授業でなかなか聞けないことを質問できた。

分かっているつもりだけど、いざ聞かれると分からないところが見つかり、質問して理解できた。



【取組】生活場面から「問い」を抜き出す

【道上小学校では...】導入時に能動的な問題把握

・吹き出しや絵だけ見せる → 気づきを交流する → 児童が問題を作る

おにぎりを買おうとしている。  
・おにぎりを何個買うのかわからない。  
→買う数がわかれば問題ができるよ。

おにぎりがどれも1こ128円で売られています。こんぶのおにぎりを5こ、さけのおにぎりを3こ買います。代金は全部で何円になりますか。

・図だけ見せる → 気づきを交流する → 児童がめあてを立てる

ボールが箱に入っている。  
・入っていないところもある。  
・4個並んでいる所と2個並んでいる所がある。  
・6個並んでいる所が2すじと4個並んでいる所が2すじ。  
・ボールはいくつあるかな?  
・お尋ねは、「ボールはいくつ入っていますか?」かな?

九九をつかって、ボールの数をもとめよう。

- 大切にしていること
- ・他教科との関連や生活場面とのつながり
  - ・不利益(情報を与えないことで広がる創造力)

【取組】メタ認知力を高める「学びのふりかえり」

【湯田小学校では...】学びのふり返り, 学びを見直す

・ふり返りの視点

- ①うまくいったところ(いかなかったところ)はどこか
- ②うまくいった(いかなかった)のはなぜか
- ③次はどうするか

大切にしていること

- ・学びの結果だけでなく、学びの過程に着目させる。⇒学びの過程の充実
- ・学びの過程(何につまずいているのか、どのように学んでいるのか)をしっかりと見取る。⇒個に応じたアプローチをする(個別最適学習)

①うまくいったこと・うまくいかなかったこと  
・字をきれいにかけた。  
・せんをまっすぐにかけなかった。  
②どうしてうまくいった(いかなかった)のか  
・かきじゅんをよく見てかいたから  
・かきじゅんのむずかしいところがあったから  
③つぎはどうするか  
・なんかいもれんしゅうする。  
・むずかしいところをする。  
(1年生児童のふり返りより)

T: どうしてこの絵をかいているの?  
C: 友達が塗っているから...

T: どうしてこの絵をかいているの?  
C: 絵をかいたら、動物の赤ちゃんの大きさがよく分かるから

※表面的には「絵をかく」という同じ活動でも、子どもたちの意図は異なる。「今、何をしているの? どうして〇〇するの?」と、子どもたちの中に入り、子どもたちの活動の意図をしっかりと聞く(つかむ)

【取組】教職員の取組 「みる・みる・みせる」

～ほかの先生の授業をみる・自分の授業をみせる～

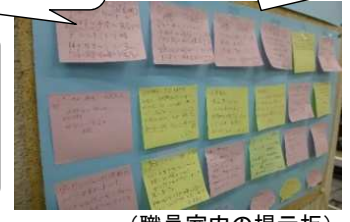
【神辺中学校では...】  
学期に1回、2週間程度の期間を設け、教員を8～9人のグループに分けて実施。授業参観後、どのような場面であの子の表情や様子が変化したのか、生き生きとしたのはどこか等、学びの中の子どもの変容を評価し、日常的な対話及び授業のきりりポイントとして付箋に記入し、交流する。

<教員の感想>

- ・学びのつながりを自分の教科以外で見られる面白さがある。
- ・自分の教科では見られなかった子どもの生き生きとした表情を見ると、その子に対する理解が深まる。
- ・異学年の子どもの反応・つぶやきが自分の糧になる。

〇〇がページをめくって黙々と書いていました。「やろう」という気持ちになると動くんですね!

イラストを見ながら「うーん」と悩んでいる姿が印象的でした。



(職員室内の掲示板)

【取組】自分との対話・先生との対話・子どもどうしの対話

【中条小学校では...】多様な環境づくり

- ・自分で課題を解決したり、グループで活動したりと、自分で選択したやり方で学習が進められるようにする。  
\*自分で学習計画を立て、プリント学習を行ったり、調べ学習を行ったりするなど。
- ・思考を手助けする教材や教具を用意する。  
\*具体物やヒントになるプリントなど。
- ・学校図書館の利用

- 大切にしていること
- ・子どもたちが自分で学習の進め方を選択すること。
  - ・一人でする。
  - ・ペアやグループでする。

自分の課題の内容と進度に合ったやり方で



【取組】個に適したアプローチ 個別最適の学び

【神辺中学校では...】「神中リーダーSST(スティー・サポート・チーム)」

- ・生徒による学習推進組織
- ・3年生のリーダーたちが1年生の教室で学習の仕方をアドバイスする。
- ・実施期間は、定期テスト前の1週間程度。内容は1年生のニーズを吸い上げて決定している。  
\*教科の学習プリント支援、テスト計画の立て方指導、テスト勉強の方法をアドバイスなど。

(教えるために)復習したいので、1年生のテスト範囲を教えてください。

(1年生の)学習プリントをください。

3年生に教えてもらった勉強法をやってみよう!

- 大切にしていること
- ・「生徒に任せる」
  - ・伝え方、教え方を主体的に考えて行動
  - ・ヨコのつながりを活かした自主研修
  - ・タテのつながりを活かした学習指導



家庭教育支援アドバイザー(AD)

- 勤務...週2回  
午前:中学校 午後:小学校

- 担っている役割
- ・小中連携  
\*兄弟姉妹関係の情報共有と対応
- ・担任の子ども理解への助言
- ・不登校児童生徒の家庭訪問
- ・担任との連携  
\*ADのアドバイスを受けて担任が動く  
→動いた結果を検証・次の動きを考える→動く→検証...保護者・子どもの変容
- ・関係機関との連携

アンケート結果から見えること

	2018年度2学期	2020年度2学期
教師	76.9	81.3 (+4.4)
児童生徒	64.6	78.2 (+13.6)
	72.8	77.4 (+4.6)

子ども主体の学びを目指して、教師が対話する場を工夫することで、自分の考えを伝える・分からないことやもっと知りたいことを伝える子どもの割合が増えている。

# 教科指導

授業支援対応表(7月1週)

科目	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)
国語	1	2	3	4	5
算数	1	2	3	4	5
理科	1	2	3	4	5
社会	1	2	3	4	5
英語	1	2	3	4	5
音楽	1	2	3	4	5
体育	1	2	3	4	5
保健	1	2	3	4	5
家庭科	1	2	3	4	5
総合	1	2	3	4	5
特別支援	1	2	3	4	5

※ 学力向上事業に係る授業を優先しています。支援対象者を中心に、授業及び活動内での支援をお願いします。  
 ※ ひまわり学級の交流授業(音楽・美術・総合)については、可能な限り対応いたします。  
 ※ 特別支援学級(発達障害)・特別支援学級(知的障害)・授業支援員(特別支援)は必ず参加していただきます。  
 ※ 生徒の困り感の軽減、研究推進にご協力ください。

●授業支援対応表● (中学校)  
 だれがいつ、どの授業に支援しに行くかを表にすることで、事前に、どのような支援が必要なのかを教科担任と連携することができ、具体的な支援につながる。

# 授業

「みかたカード」の活用 (小学校)

解決の手がかりとなる児童の発言や、教科特有の用語などをカードとして蓄積し、単元内で活用することで、前時の復習や、本時の授業での活用が可能となる。また、このカードが自己の学習を振り返る手がかりとなる。このようにカードを活用することで一貫した授業となり、**学習が繋がっていく。**

児童のノート例

使用例

「みかたカード」をまとめて使用

「昨日は何を勉強したかなあ...?」

# 家庭学習

●家庭学習●  
 次の授業とスムーズにつながるように授業内から課題を出すことで授業と家庭学習をつなげ、児童生徒の興味・関心や思考を継続させる。授業のノートを見れば思考のヒントが得られるという効果もある。

<授業プリント>

うさぎがかめ3

家庭学習を授業と関連させた内容とする。また、Google Classroomでも配信し、質問等もできる。

広島県学力向上推進地域事業の最終ゴールは学力の向上である。学力向上に向け、小学校と中学校が連携して、教科指導と生徒指導の両面からのアプローチが必要である。仁方中学校区では、小学校・中学校で共通の取組を進めている。

# 仁方中学校区重点取組

教科指導		生徒指導	
小学校	中学校	小学校	中学校
<p>○「習得」のための指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業の流れ」の提示</li> <li>理由を付けて発言する場の設定「みかた(見方・味方)カード」の活用等</li> <li>児童の表現様式(数・式・図・言葉)の置き換え指導(ノート、板書、ワークシート等指導)</li> </ul>	<p>「授業の流れ」の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>根拠(体験や既習内容)をもとに理由を付けて発言する場の設定</li> <li>自分の考えを明確にする指導(ノート、板書、ワークシート等指導)</li> </ul>	<p>○互いに認め合う学級づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師-児童間、児童間のつながりを意識した取組</li> </ul>	<p>○支持的風土のある学級づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級目標を意識した取組</li> </ul>
<p>「みかたカード」を見たら、勉強したことを思い出せるよ!</p>	<p>「授業の流れ」を見ると見通しがもてるよ!</p>	<p>○授業規律</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>着ベル、黙想の徹底</li> </ul>	<p>○無言掃除の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律5項目の徹底(着ベル・黙想、あいさつ、姿勢、挙手、返事)</li> </ul>
<p>黙想をしたら、やる気が出るよ!</p>	<p>自分の割り当て以外の掃除場所も掃除ができれば気持ちがいいよ!</p>	<p>○異学年交流の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識をもたせ、振り返り活動の充実</li> </ul>	<p>○プラスアルファの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒主体の活動にするための「活動中の生徒の姿」の焦点化</li> <li>縦割り活動の充実</li> </ul>

# 研究主題を達成するために

## 仁方中学校区学力向上推進地域事業のイメージ図



# 家庭学習ノートの充実・掲示

家庭学習ノートに教員からの励ましのコメントやアドバイスを記入し、充実した学習内容へと発展させ、学力の向上につながる。また、学習内容を工夫しているノートを掲示することで意欲の向上につなげ、主体性を育む。

自分のがある! また頑張る!

こんな学習をすればいいんだ。

今日は、英・数・社のしけんはんいをしました。がんばりました。

主体的

学習意欲の向上

教師の励ましにより、目的をもっためあてをたて、学習内容に変化が見られた。

# 生徒指導

●無言掃除●  
 掃除開始前に掃除場所で整列をし、掃除開始のチャイムとともに黙想を行った後に、掃除を行う。  
 きれいにすることだけを目的とするのではなく、その場所を使う人のために思う「思考力」「気配りの力」「思いやりの心」を育む。  
 中学校では、割り当て以上の掃除を自ら進んでやることを指導し、それに対する肯定的評価を毎回行う。

「あいつつ 日本一」を目指して

レベル別挨拶4

4	まらまら	大きな声で	目を見て	笑顔で
3	まらまら	大きな声で	目を見て	
2	まらまら	大きな声で		
1	まらまら			

●着ベル・黙想・あいさつ●  
 時計を確認し、授業準備をしてチャイム前に着席する。チャイムとともに黙想をし、授業の開始を待つ。教師は、徹底して声かけ・指導を行う。  
 あいさつをレベル分けし、レベル4のあいさつを目指すよう、声かけ・指導を行う。

授業に気持ちが切り替わらないよ。

●授業研究後の通信・協議シートの配付●  
 授業研究後に教職員に通信を配付する。よい点や改善点を、次の授業研究へとつないでいく。小学校では授業者が通信を作成し、中学校ではグループの事後協議の内容をまとめたものを配付する。

●個別のファイルの作成●  
 個別のファイルを作成する時間を職員研修の中に仕組み、対象児童生徒の成果物を保存し、変化を見取る。また、ファイルを作成しながら対象児童生徒について共有し、確実に成長をつなげる。  
 「思考・表現」の観点で、有効であった手立てや、児童生徒のよい変化を教職員間で共有し、各教科でアレンジして活用し、授業を改善していく。

配付資料例

バトンパス

「次の授業者へのバトン」

- 「みかたカード」を活用して児童と共に授業を創る。
- ブロック操作、数図カード、さくらんぼ計算などの様々な方法で思考し、操作と図、数、式を関連付けて考える。全体交流では、数字は何を指しているのか等、きりかえし発問を行い、理解を深める。(式を読む)
- 自己決定の場で、赤白帽子を用いて、視覚的にはっきり示すことで、発表だけでなく互いの考えを相手に伝える。

# 家庭教育支援アドバイザーの活用

- ① 授業中における対象児童生徒への支援
  - ② 補充学習での支援 (小学校:火・木・金曜日 中学校:水曜日)
  - ③ 小学校保護者相談会 (学期末の個人懇談会時) ブースを設置し、懇談会の後などに家庭での学習支援方法などをアドバイスする。
  - ④ 児童養護施設との連携 (中学校:連携会月1回、試験期間中に1~2回施設訪問時)
  - ⑤ 教職員に対する支援
  - ⑥ スクールカウンセラーとの連携・情報提供
- 支援した内容を各担任と連携し、小中一貫した指導ができるようにする。小中の学校の様子をお互いに伝える。
- 初めて夏の自由研究を我が子と一緒にできました!
- 学校での様子がよく分かって、声かけの方法が分かりました。



授業をしていて思ったことはありませんか？

授業中は理解できている感じなのに、テストでは点数がとれない…。なんでだろう？

やればできるはずなのに、もったいない…。

さっきまでがんばっていたのに、集中力切れちゃったな！

取りかかりが遅い！

グループ学習にしたら問題解いてるよ！

個別の児童生徒の実態把握と手立て

配慮を要する児童生徒に向けて

家庭教育支援アドバイザー(AD)の活用

個別の指導計画の作成と活用

単元等	実態・課題(★)・取組(O)	子供の発容	課題
国語科(1学期)「あいうえおのうた」	★文字への関心が薄い。 ○音節と文字が対応するように、文字と●の記号を示し、手を叩いて音節一つ一つを意識させる。	・文字と音とを結びつけられるようになった。 ・その後の特長音節も、手を叩きながら確認するようになった。	・読めない文字が多く、読むことへの苦手意識は強い。
「あめです」	★文字を目で追うことが難しい。 ○文字を指で押さながら聞いたり読んだりさせる。	・読む箇所を指で押さえ、遅れないように目で追うことはできた。	・みんなの速さで読むことはできない。一文字ずつでないと読めない。

児童生徒のつまずきの要因分析

具体的な指導の手立ての前に、つまずきの実態や考えられるつまずきの要因について教職員で考えます。つまずきの要因を考えることでより、具体的な指導の手立てを考えることができます。

児童のつまずきの要因分析

①「つまずきの実態」  
自分の考えを文で表すことが難しい。

②「考えられるつまずきの要因」  
主語と述語の関係を意識して文を書くことが難しい。

③「つまずきの原因に対する具体的な指導の手立て」  
自分の考えを、まずは話し言葉で表現させ、話しただけを書き言葉で表現させる。

【教職員に向けて】

- 授業参観から、児童生徒の実態の把握
- 個々の児童生徒に対する教職員への助言
- スクールカウンセラー連絡会への参加、助言

【保護者等に向けて】

- 保護者等と面談、助言
- 家庭訪問

毎週の生徒指導連絡会、校内研修会のみならず、日々の生徒指導や特別な配慮を要する児童生徒への対応についてアドバイスをいただいています。

家庭学習の充実「佐伯、家庭学習のススメ」  
家庭学習ステップアップ週間「さいきっ子カード」  
自ら学ぶ

家庭学習習慣

家庭学習の習慣は、生活習慣でもあります。自分の生活リズムの中で時間を決めて学習するよう指導しています。毎日決まった時間を「必ず机に向かう習慣」として位置付けさせています。

着ベル・挨拶・返事

ベルが鳴る前に着席することや授業開始・終了時の挨拶返事「はいっ!!」を小中9年間の共通取組とすることを確認して、児童生徒に意識させています。

家庭学習の時間

家庭学習の時間のめやすを設定し、児童生徒に意識させて取り組んでいます。

- 小学校「各学年×10分(+10分)」
- 中学校「自分から進んで学習する時間を1時間以上」に取り組もう。

3校合同での取組

FumFum 教務通信 家庭学習のすすめ さいきっ子カード

つまずきの要因分析

研究授業では、児童生徒のつまずきの要因分析を事前に協議し、指導案に記載しています。また、授業後に支援は適切であったかを協議し、次への指導に活かしています。

各校の取組

佐伯中 かわり合い  
友和小 言語活動の充実  
津田小 ICTの活用

かわり合いのある授業の推進

「かわり合い」では、「IN」と「OUT」を意識したかわり合いを目指しています。「さいきっ子授業モデル」より抜粋

学習規律の指導の統一

3校が共通して①時間を守る、②授業前後の挨拶、③「聴くこと」「話すこと」(うめのかさ)の指導に取り組んでいます。

こめのかさ うめのかさ

正しい話し方のポイント  
正しい聞き方のポイント

子どもたちの変容も見取ることができました！

以前は・・・

- 授業態度は真面目である。
- 宿題も忘れず提出する。
- 書き間違いが多い。
- 記述問題が空白なことが多い。
- 文章や話が長く目的に合っていない。
- 言葉が出てきにくい。

現在は・・・

- 授業中に、話型や既習の掲示を自分から見て活用しようとするようになった。
- 授業中に考えをまとめて説明できる場面が増えてきた。

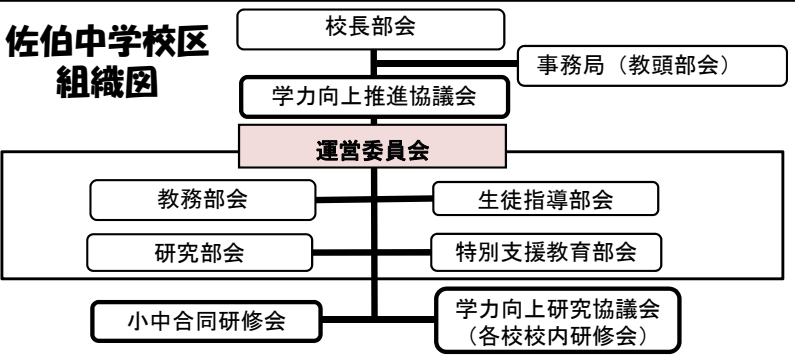
昨年度 算数3学期末テスト結果  
知識・技能 92点  
思考・判断・表現 56点

本年度 算数1学期末テスト結果  
知識・技能 90点  
思考・判断・表現 76点

話にまとまりがなくて、忙しい生活の中で聞き流してしてしまうこともありました。

みんなの前で話せるようになり、クラスのグループリーダーを務めることができました。嬉しいです。

教務部会 研究部会



あいさつ運動 生徒指導部会

あいさつ運動

清掃活動

自問(無言)清掃 縦割り活動 リーダー中心の振り返り

仲間と一緒に!

つながりを深めるデー

「あいさつ運動」と「清掃活動」は3校が共通して取り組んでいます。「あいさつ運動」は、児童生徒同士や、地域とのつながりを大切にして、行ってきます。「清掃活動」は縦割りの班で行っています。上級生はリーダーとして、掃除の仕方を教えたり指示を出したりします。下級生は上級生から学び、縦のつながりを深めています。

特別支援教育部会

巡回相談

対象児童生徒を中心として、特別支援教育アドバイザーによる巡回相談を定期的に行い、指導助言を担任に伝える会を設定し、日々の取組に活かしています。

通級指導についての研修

友和小学校で実施した「通級の指導について」の校内研修に参加し、指導内容・方法について理解を深めました。

アートポストカードを活用したSST研修

児童生徒の情報共有

特別な支援を要する児童生徒について、3校で情報共有を行っています。実態や支援方法について交流したり、別の支援方法について検討したりしています。進学に向けて、6年生児童についての連携も図るようになっています。

自立活動の内容や指導について研修

小学校6年生が中学校へ授業体験に来た際に、中学校2年生が「小学生をお世話し隊!」としてボランティア活動を行いました。今年度は、中学2年と小学6年でペアを作り、メッセージや質問等を、手紙やビデオレターで交換合っています。交流活動を通して、中学生は思いやりの気持ちと態度を育み、小学生は中学校生活への不安を解消すると共に、中学生への憧れをもつことができました。

★各校の授業研究に、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターが参加して研修を実施しています。

教職員全員参加をめざした取組

研究通信 教務通信 小中合同研修会 校内研修へ交流参観

さいきっ子

推進のための3つのポイント!!

- チーム佐伯中学校区!としての取組 教職員全員参加の実践推進
- スパイラルな取組 個の実態から手立てを考え取り組みます。取組を振り返り、更なる手立てを考えます。
- 学校教育活動全体で取り組む児童生徒の成長学習活動で!生活活動で!家庭で!

## 学力向上のススメ

Q協働的な学びってどうするの……A1へ

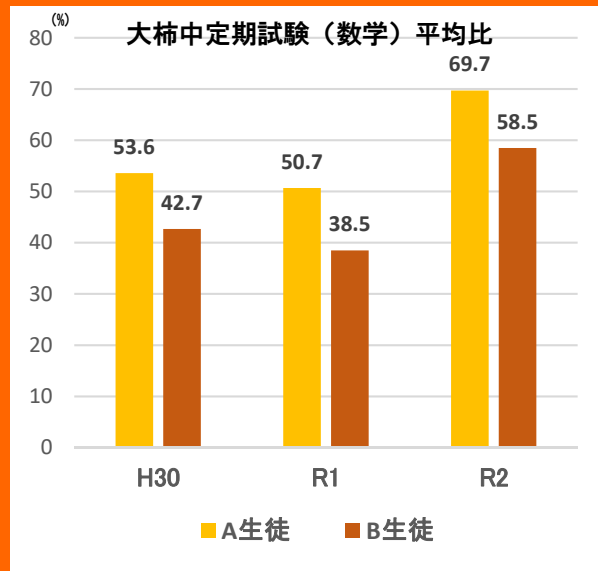
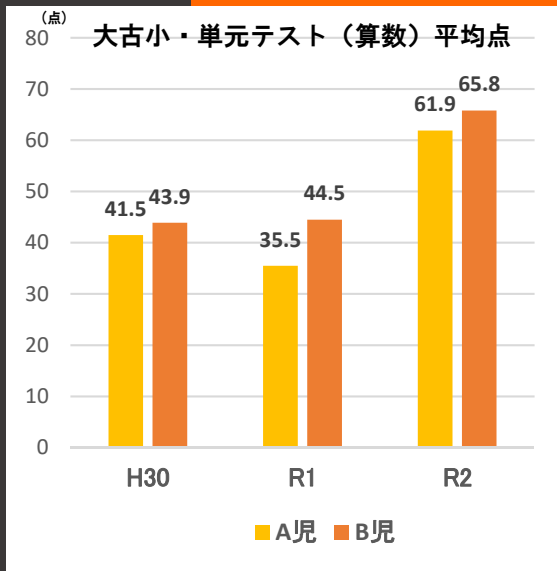
Q学力が伸び悩んでいるなら……A2へ

Q小中の先生が学び合うには……A3へ

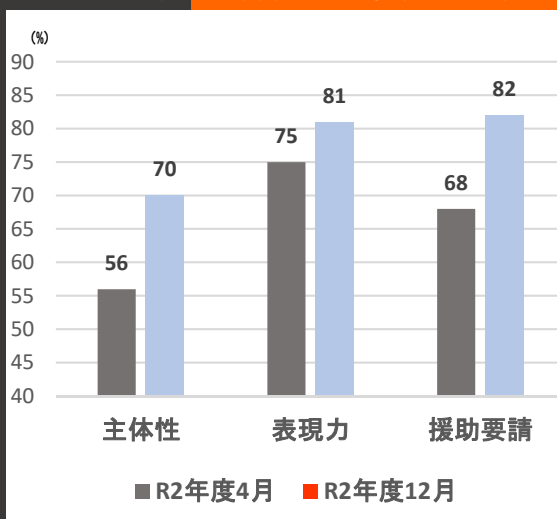
### 成果

- 学力に課題のある児童生徒の学力が大きく向上した。
- 主体性・表現力・分からないことを意思表示するといった援助要請の肯定的自己評価が高まった。

学力に課題のある児童・生徒の算数科・数学科の学力の3年間の変容



学習に対する意識調査の肯定的回答率



協働的な学びに対する児童生徒の意識

みんなで先生の話聞く授業だと、自分もう分かっている内容の時次は次にいくのを待たたりしてひまになっていた。でも自学だと自分の分からないことを先生や友達に聞ける。みんなで同じことをする授業だと、分からないことがあっても聞きにくかったけど、今は他の人も聞きに行っているから聞きやすい。(小6児童)

同じ班の友達の意見を聞いて、私の文章の捉え方が違っていただけに気付いた。また、相手の意見をただ聞くだけでなく、気になったことは質問しながら聞いたので、納得しながら理解することができた。(中3生徒)

## A1 協働的な学びのススメ

協働的な学びは、その目的を教員が意識し形態を選ぶことが大切です。協働的な学びの3タイプを紹介します。



A: 自分の考えを他者に説明することにより、考えの明確化・精緻化を図るもの



B: 他者のよりよい学びを参照し、自分の学びに取り入れていくもの



C: 他者とともに考えることにより、はじめは持ち合わせていない新しいアイデアを生み出すもの

また、協働的な学びの中で目指す姿を教員で共有しておきましょう。

育成する資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
①自分を律すること (授業規律)	ルールを守る。 ・活動に必要な物だけを机上に置いている。 ・机をきちんとつけ、頭を寄せ合っている。	自分で判断し、進んで行動する。 ・一緒に活動しようとしている。 ・相手を見て話している。 ・相手に伝わる声で話している。 ・人任せにせず意見を言っている。	活動をどう進めるか考え、自分をコントロールする。 ・指示を待たなくても考えて活動を進めている。	その場の状況に合わせて、自分の気持ちや行動をうまくコントロールする。 ・自分の意見に固執せず、相手の考えを受け入れようとしている。
②自分の考えを大切にすること (話し方・伝え方)	自分の考えをもった時は必ず言う。	自分の考えを進んで言う。 ・はっきり言いきっている。 「私は～と思います。」 ・相手の意見を尊重しながら言う。 「〇さんと同じように／〇さんとは違って・・・」	自分の考えを、相手に理解してもらえらるまで伝える。 ・根拠を明確に示す。 「理由は～です」 ・ナンバリング、接続詞等を使って具体的に伝える。 「私の考えは2つあります・・・」 「だから」「つまり」「例えば」	自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしながら、よりよい意見・新しい考えを作り出すような話し合いをする。 「じゃあ〇さんのこの意見と私のこの意見を組み合わせるとどうなるの？」
③相手を大切にすること (聞き方)	相手の話に反応しながら聞く。 「うん、うん」 「へえ～」 「なるほど」 相手を見ながらうなずく。	相手の考えを尋ねる。話し合いに誘う。 「なぜ〇なの？」 「〇さんはどう？」 「全員意見言った？」 「自分／〇さんの意見についてどう思う？」	他者の意見を認め、文章や考えに助言する。 「この言い方／意見いいね」 「ここはこうしたらどう？」 「ここはどういうこと？」 自分の考えと比べる。 疑問点を探す。	「もし〇になったらどうする？」 「じゃあその時のことも考えておこう」

大柵中学校区で育成する資質・能力の定義とめざす姿(協働的な学びに関するもの)

## A2 学力向上のススメ

- ・個別の指導計画で課題を把握し、児童生徒への効果的な指導につなげます。
- ・個に応じた学び(学習方法や学習場所、進度が自己選択・決定できる)環境を整え、「自学力」を向上させます。



←学習を1人で  
行うか他者と協  
働して行うか自  
分で決める。



←個別に指導を希  
望する児童は、  
オープンスペース  
で個別指導を受け  
ることができる。



→他者との  
対話で考え  
を深める。

- ・教育相談体制「トークの日」を充実させ、定期的に自分の生活や学習の状況を振り返らせます。

## A3 小中連携のススメ

研究授業や合同研修会など、小中で集まる機会を計画的に設けます。互いの授業を見に行くことで、小中9年間を見通した授業改善に取り組むことができます。

これらの取組については、HPに詳しく掲載しています！

江田島市立大柵中学校(<http://www.edc.etajima.Hiroshima.jp/~ohgaki-chu/>)

江田島市立大古小学校(<http://www.edc.etajima.Hiroshima.jp/~ofuru-sho/>)

ここは私たちの学校 久井小学校と久井中学校だよ！  
小学校の校舎と中学校の校舎が 同じ敷地の中にあるんだ  
ちょっと見てみようよ～

# クインちゃん と たぬ江の 久井小・久井中探検

詳しくはココ！！

久井小と久井中の先生たちが集まっているよ

何をしているのかなあ～

《授業を見にいこう週間・月間》  
小中合同授業研に加えて 期間を決めて  
授業を見合うことで 小中の先生の良さを  
お互いに取り入れることができるんだよ  
「小学校の先生の板書はわかりやすい  
児童への声かけもこまやか！」  
「中学校ではグループ・ペア活動を活かして  
思考を深めている テンポ・メリハリが  
いい！」  
「〇〇先生に教え方を聞いてみよう！」

小中の先生が同じ方向を向いて  
授業をよくして行って  
子どもたちに 学力をつけようとしているよ  
9年間を見据えて同じゴールを目指す気持ちは  
どの先生にも負けないよ！

なるほど！ じゃあ 授業を少しのぞいてみようよ

練習するマット運動を選択

算数の勉強をしているね

表に書いている子 式にしている子  
いろいろなやり方で  
算数の問題を解いているよ

たぬ江は 葉っぱを並べるやり方にするよ！

そうか！  
自分で選ぶから  
やる気が出るんだ！！

生徒の感想「スピーチを三つのテーマから選択した。自分で  
決めて上手に言えていてすごいと思った。」  
「自力で解決できていた」「主体的、意欲的な態度であっ  
た」という児童生徒の姿や事後アンケートの内容などから  
「選択」は有効であると受けとめている。

中学校の授業をのぞいてみようよ

授業に集中できていない子がいるみたい～

《多面的な視点から考える支援》

多面的な見取りをすることで生徒の実態がより  
明らかに

①PASS評定尺度  
「知識のPASS理論」を活用して支援のあり  
方を考える(中学校)

プランニング (Planning)  
注意 (Attention)  
同時処理 (Simultaneous)  
継次処理 (Successive)

「PASS」はわ  
かりやすく、生徒  
の実態が把握しや  
すかった。  
(先生方の声)

四つの認知処理過程それぞれ6項目についての  
生徒の自己評価をもとに学習時の困り感を把握  
して授業改善に役立てる  
(広島大学大学院教育学研究科の協力による)

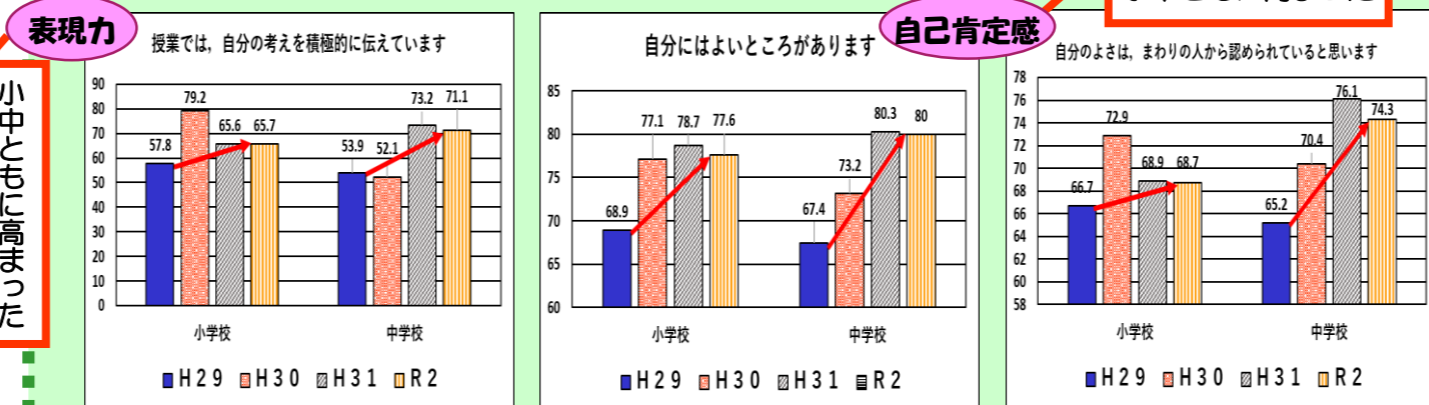
②特別支援教育の視点  
視覚化 パターン化 作業化

③「気になる生徒の支援につなげる  
チェックリスト」(広島県教育委員会)

自分のためだけでなく だれかのためにがんばると  
元気や勇気がわいてくるんだね  
みんなのためにがんばるとすごい力が出るんだね  
そんな姿はかっこいいし あこがれるよね  
あこがれや夢や希望をもつと 強くなれる！！  
それが 勉強をがんばる力にもつながっているんだね  
これからも ふるさと久井・八幡を大切に  
自分をみがいていってほしいな  
久井小中の子どもたち がんばれ！！  
いつまでも 久井小中学校を見守ってほしいね！  
うん！  
〈クインちゃん・たぬ江〉

このグラフを見てみて！どんなことがわかる？ ただんよくなっているってこと？

平成29年度から児童生徒アンケートを実施——「表現力」「自己肯定感」にかかわる数値は  
県平均よりも低い傾向にあり 本校の課題として受けとめ取り組んできた



小中ともに高まった

なぜよくなったんだろう？どんなときに自分のよさが認められているって思う？

うーん がんばってるとき！輝いているとき！すごいねって言われたとき！

じゃあ 久井小中の子どもたちがすごく輝いてる場面を思い出してみようよ！ うん！



体育祭

文化祭

久井！さわやか高原祭  
りボランティア

生徒会 ポジティブ改革  
やるぞ！やるぞ！やるぞ～！

ポジティブ  
改革  
～やればできる～

わたしも出た  
創作民話劇「国造の狸たち」だ！

児童会 あいさつビンゴ

生徒会役員選挙に中2の学級の半数の生徒が立候補したよ  
先輩にあこがれていて 久井小中のためにがんばりたいんだって！

「hyper-QU」を活用して学級の実態をデータ  
で分析し集団づくりに活かしているよ  
久井中学校ではエクササイズをしてお互いの  
よさを認め合っているんだ  
いいところを書いてもらって元気が出るんだよ！



↑全校エクササイズ→

みんなエクササイズが大好きなんだね  
クインちゃんもやってみたいな！

地域や保護者のみなさんも  
久井小中を見守り  
協力してくださっているんだね

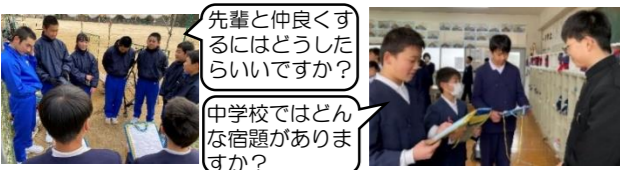
あっ、がんばっている小学生がいる！  
ドリルタイム  
校内検定に向けて  
みんなががんばって  
全員合格を目指  
しているよ！

学習チャレンジデー

日付	今日のチャレンジ	がんばったこと	保護者	先生
10/15	漢字検定	漢字検定に合格した	〇〇さん	〇〇先生
10/16	算数検定	算数検定に合格した	〇〇さん	〇〇先生
10/17	英語検定	英語検定に合格した	〇〇さん	〇〇先生

小6の子が中学生に何か話しかけているよ！

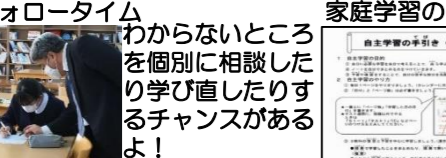
中学生になって困らないように質問しているんだね！



先輩と仲良くす  
るにはどうした  
らいいですか？  
中学校ではどん  
な宿題がありま  
すか？

さっきの小学生が久井中学校に入学したよ！

なんだか 勉強で困っているみたい…

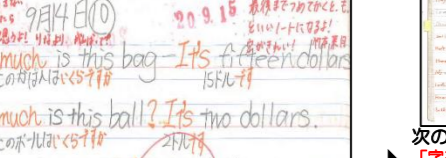


漢字や英語、自主  
学習のやり方、久  
井中ノートの書き  
方や例が紹介され  
ているよ！  
自主学習の交流や展示

先輩の毎日学習の英語ノートを見て  
中1の子がびっくりしているよ！

先輩にアドバイスをもらってすごくやる気になっているね！

毎日学習の英語ノートの異学年交流



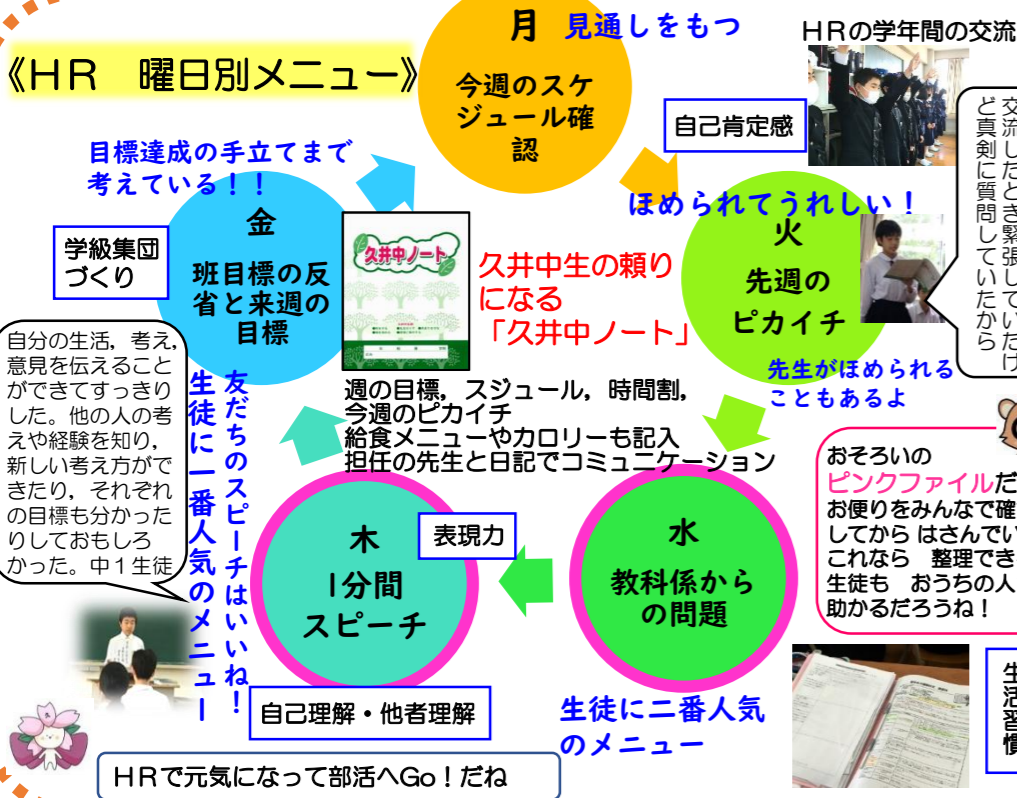
交流後

次の日の英語ノートを見ての先輩の感想  
「字をつめて書いてあって すごくきれいなノートになっていていい！  
これからもがんばろう！！」

中1の英語ノートを見ての先輩からのアドバイス  
「最後までつめて書くといいノートになるよ！字がきれい！！」

あれっ あそこにも笑顔の中学生がいるよ！

自分で勉強の計画を立てている児童生徒も増加  
傾向であり、久井小久井中全体で主体的な学び、  
学習意欲が高まっている。(児童生徒アンケートより)



《HR 曜日別メニュー》

目標達成の手立てまで  
考えている！！

学級集団  
づくり

自分の生活、考え、  
意見を伝えること  
ができてすっきり  
した。他の人の考  
えや経験を知り、  
新しい考え方がで  
きたり、それぞれの  
目標も分かったり  
しておもしろ  
かった。中1生徒

友だちのスピーチはいいね！  
生徒に一番人気のメニュー！

自己理解・他者理解

HRで元気があって部活へGo! だね

生徒に二番人気のメニュー

生活習慣

HRの学年間の交流

自己肯定感

ほめられてうれしい！  
火 先週の  
ピカイチ

先生がほめられる  
こともあるよ

おそろいの  
ピンクファイルだ！！  
お便りをみんなで確認  
してからはさんでいるよ  
これなら 整理できるね  
生徒も おうちの人も  
助かるだろうね！

表現力

木 1分間  
スピーチ

水 教科係からの問題

生活習慣



# 学力向上推進地域事業 尾道市立美木中学校区 研究のまとめ



若い先生も増えてきたし、校内で足並みをそろえるために研修するので手一杯。これ以上は難しい…



子供達の自己肯定感が低いのが気になるな。何とか自信をもってほしいけど、どんな取組ができるだろう。他校の子供達はどうかだろう。

学習が課題なのか？生徒指導が課題なのか？分からないなあ…



いろんな個別の指導計画があって、正直負担。作るだけで、活用できていないなあ…。記録を残すことが大切なのは分かるけど、どうやって活用するの？

## 取組当初の教員の心の声

小中連携って言われても、どんな先生がいるのかわからない…。校種が違うと雰囲気も違うし、本音を言うと、やりづらいなあ。

あの子には何か支援が必要だとは思うけど、どんな機関にどうやって連携したらいいのかわからないから次の一歩が踏み出せない…

中学校区の学校それぞれで色々な取組をしているけど、系統性が見えなくて、なんだかチグハグな印象だな…。中学校の入学でまたゼロから指導をしていくのは時間がもったいないなあ。

## こんな取組をしました

### 教科指導の工夫

#### 学力を付ける取組

【小中学校で共通して取り組む内容を共有】

##### ☆授業づくりの系統性

全国学力・学習状況調査の問題を分析し『読むこと』、『書くこと』、『表現すること』を中心とした授業研究を各校で行う。

##### ☆授業の型を統一

導入→めあて→個人思考→集団思考→まとめ→振り返りの流れを統一

##### ☆ノート指導

ノート指導の一環として中学生のノートを小学校の掲示コーナーに掲示



#### ～児童の声～

○自分の苦手なことをどんな風に解決していったらいいか考えられるようになりました。  
○学び方が身につけてきたように思います。

#### 【家庭学習の指導】

☆けてぶれ学習法  
け…計画  
て…テスト（問題を解く）  
ぶ…分析  
れ…練習（間違えた問題復習）

### 重点を絞った指導

【中学校】（授業改善）

#### ☆「書くこと」の指導

→条件を提示し、それを継続して行う。  
条件の例：①問われている内容を把握する。  
②文体を統一する。  
③一文を短くして伝えることをまとめる。など

☆全国学力・学習状況調査から本校の課題を分析

#### 例【数学】

R2全国学力 冷蔵庫の総費用 } 日常生活と結びつける。  
R3全国学力 紙パックの枚数 } 複数資料から必要な情報を取り出す。



### 学校図書館・新聞利活用の充実

☆学校司書を通した3校の取組統一

- ・情報交流、環境整備
- ・3校間での本の貸し借り
- ・「情報カード」の活用指導

☆学校図書館の充実・学校図書館を教科学習で活用

→国語科のみならず社会科や理科など様々な学習で学校図書館の資料を有効に使う授業の構築

☆新聞を活用した学習「NIEタイム」

→新聞の切り抜き記事をNIEノートに貼り、内容をまとめたり感想を書いたりする  
→新聞を使った「発信する力」の育成

☆各新聞へのコンクール・投稿

- ・中国新聞ヤングスポット「みんなの新聞コンクール」
- ・読売KODOMO新聞「400字で言わせて」作文



### 小中連携

#### 【児童生徒】

☆卒業生からのおすすめ本紹介  
☆児童会・生徒会交流（学期に1回、年3回）

↓  
他校の良い取組を児童生徒が真似て、自校への取組へ  
例) NIEタイム…新聞を使った帯タイム  
ありがとうの花…児童同士が感謝の気持ちを伝えるために、ミニカードに思いを書き、交流する活動  
カード交流の活動

自主ノートの取組…中学生のノートが小学生の見本に！

#### ～児童生徒の声～

○他校の活動を知って、自分の学校でも真似してみたい。  
○中学生の司会を見て、意見が言えていない人をきちんと見て話を振っていてすごいと思った。自分もこうなりたいと思った。  
○小学生にもっと分かりやすいことばで説明するとよかったなあ。伝えることは難しい。  
○自分がいた3年前にはなかった活動をしていて、年々進化しているんだと思った。また、小学校で同じようにNIEに取り組んでいるので、相違点など探してみようと思った。

#### 【教職員】

☆学校図書館を活用した授業研究の交流  
☆3校合同ビブリオバトル研修（職員自身も体験！）  
☆定期的な授業参観（中から小へ、小から中へ）  
☆授業参観後には、『授業の報告』を渡す  
☆それぞれの学校の校内研修に参加

#### ～先生たちの声～

○普段の授業をみることで、生の児童生徒の様子に分かりやすい。  
○児童生徒との交流も出来、進学した際の安心感にもつながった。  
○異校種間の違いや取り入れたいことなどヒントになった。  
○学年ごとの積み重ねが分かる。  
○既習事項の復習や中学校で習うことの筋道を立てやすくなった。  
○校区内の先生たちとの意見交流が活発になり、児童生徒の情報交換も効率的になった。  
○9年間の系統性を意識することが大切だと実感できた。  
○小学校の学習の流れをもう少し取り入れていくことも必要だと感じた。  
○中学校の高度な内容の授業のためにも基礎を意識していきたいと改めて感じるようになった。

### 家庭教育支援アドバイザー（AD）の活用

#### 【取組】

学期毎に、ADを交えて全学級担任で「ミニケース会議」を実施し、児童生徒理解・保護者理解の方法・支援の仕方等の協議、教職員との面談、家庭訪問・学校で児童生徒・保護者との面談、関係機関との連携をした。

#### 【具体例】

まず、担任の先生と児童生徒との信頼関係を高めよう。保護者の次に近い大人である担任の先生も生き方のモデルの役割を担ってあげたらいいですよ！家庭には良いことをしっかり伝えて、家庭でも褒めてもらいましょう。そうすることで本人の家庭での居心地が良くなり、落ち着くはずですよ。

#### 【取組後】

##### 事例1

○休憩時間は意識的に児童との会話を増やし、信頼関係を高めながら指導することで、児童に、やるべきことはきちんとしよう、という意識が生まれた。少しでもできたことを家庭でも褒めてもらうことで家庭内の人間関係も円滑になった。  
○家庭学習をすることで自分に自信が持てるようになり、自分から話しかけられるようになることで交友関係が広がった。明るい表情で学校生活が送れるようになった。

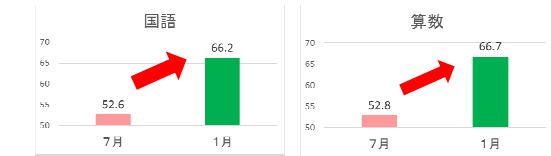
##### 事例2

○個別の指導計画をもとに、適切に接することで落ち着いて学習に取り組めるようになった。なんと!!2学期の単元テストでは、100点が2枚も!! 自己肯定感も向上!



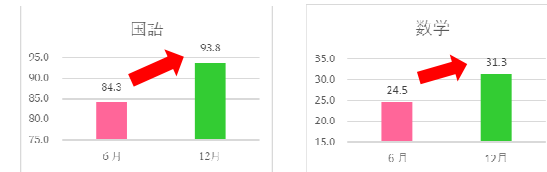
### 学力調査の結果の推移

小学校 令和2年度 類似問題での検証



全国学力・学習状況調査の問題で課題を分析

中学校 令和2年度 類似問題での検証



①美術科でまとめた鑑賞文や作文を分析して国語科での指導に生かした。1年時の記述と今年の生徒の記述を比較すると、自分が感じた抽象的な感想を具体的に示すなどの変化が見られた。  
②生徒の振り返りで、9月の平均文字数は約6.5文字であったが、その後12月には14文字まで上昇した。「〇〇が分かった」や「がんばりたい」だけの記述からキーワードを使った振り返りや解き方の方法を説明した振り返りが見られた。

### 取組を通しての教員の心の声

中学校区で授業スタイルを統一したり、職員合同で研修したりしたことで、小学校から中学校へ進学する時のギャップを軽減できたのでは！

気になる子どもには、特に、チームとして、9年間を見通して関わっていくことが大切だな。

中学校の先生の教科への専門性は勉強になった。教科指導で困ったら相談したり、一緒に単元を作ったりしていきたい。

外部との連携ができたりすると効果的だな。

小学校の先生たちの授業の工夫を見習って、さらに生徒たちの興味を引き出していこう。

ADのおかげで、家庭や専門機関とのつながりの作り方が分かってきた。3年間で学ばせて頂いたノウハウをこれからも伝えていきたい。

小中の先生で協力したら、もっと効率的に学力があがりそうだ。

### 生徒指導の工夫

#### 育てたい姿を系統付け・可視化

##### ☆Can do list

→ 授業や学校生活の基本となる中学校区で統一した指導  
(中学校入学時から指導が継続できる。)

可視化・スリム化 → 実働化

朝や帰りの会・朝や帰りのHRでの点検活動

#### 具体例

(一部抜粋)  
(全体は、学校HPへ)

##### 自主・自立【自己理解】

小1～小4 自分の長所（よいところ）がわかる。  
小5～中1 自分の長所がわかり、それを伸ばそうとしている。  
中2, 中3 自分を客観視し、自らを律し、主体的に行動できる。

##### 勤労・奉仕【美化活動】

小1～小4 友達と協力して、進んでそうじができる。  
小5～中3 勤労の尊さ意義を理解して、社会を意識しながら、奉仕の心を持ち、進んで、美化活動や清掃活動などの仕事が主体的にできる。

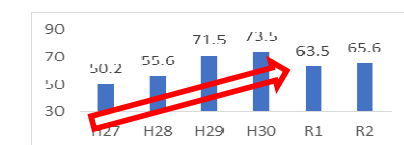
### 主体性を高める

○行事（尾道みなと祭・体育大会・文化発表会等）後に、頑張った人やその理由を振り返りに書き、書いた文章は保護者や生徒に伝え、生徒の良いところを積極的に評価した。  
○児童会が主体となり、学校をよりよくする取組を企画・発信した。児童集会で手本を示したり、進んで挨拶できた児童を児童会が表彰したりした。  
○児童会を中心とした、自分達の生活をよりよくするための自治活動を実施した。毎月、児童会と各委員会がコラボし、生活目標に対する取組を工夫したり、委員会が主体となりクリスマス会等を企画した。

### 自己肯定感の向上

○児童生徒の良いところを積極的に評価することにより生徒質問紙の肯定率が上昇した。

中学生【自己肯定感】(自分の良いところを言える)



○児童会の活動で、1年生から6年生まで全員が楽しめるように、自分たちで話し合い・活動内容を工夫することができるようになった。

○『朝のボランティア清掃』では、積極的に出来ない児童に対して、どのような声かけがいいのかを考え、工夫した声かけやルール作りができた。

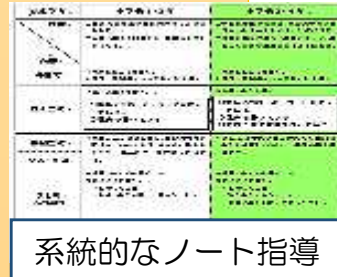


# 学力向上推進地域 十日市中学校区 研究のまとめ

(十日市中学校・十日市小学校・栗屋小学校・酒河小学校)

## ○9年間の系統的なノート指導

各種学力調査において、母集団平均を下回っていた十日市中学校では、三次市のオリジナルカリキュラムとして全教科でノート指導に取り組み、「思考力・表現力・自己学習力」の向上を目指しました。中学校での取組を小学校にも広げ、校区全体で小中9年間のノート指導を系統的に行っています。



系統的なノート指導

すでに取り組んでいたノート指導をこの事業でも継続することで充実を図ることができ、職員の立場からも何をしたらよいのか分かりやすかったです。

先生の声



小中をつなぐ  
オリジナル  
カリキュラム

# 学び方を身に付ける

学校で

家庭で

# 主体的な学びによる学力向上

十日市中学校区の取組の詳細やオリジナルカリキュラムはこちら!

<http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/tokaichi-/m134/>



## ○家庭学習を自分で計画する「パワーアップ週間」

中学校で行っている試験前に自分で学習の計画を立てる取組を小学校でも取り入れることができました。学校の規模に合わせて全体で取り組んだり、高学年で取り組んだり対象を決めました。家庭でも学習の様子を把握してもらえます。おススメの取組です!

学習に関する目標を自分で決めることができるようになりました!

児童生徒の声

自分で決めた目標だから、達成しよう頑張りました!

自主的に学習する姿が見られるようになりました。そんな姿をほめる機会もでき、親子で喜ぶことができました。

保護者の声

## ○授業とつながる自主学習ノート

授業と家庭学習をつなぐ自主学習ノートに取り組み、家庭での頑張りを伸ばすことができました。各自が工夫した自主学習ノートは右の写真のように交流し、質の高まりも見られました。

先生の声

自主学習は好きではなかったけど、他の人を見てマネしたいことがいっぱいあって、次を早くやってみたいと思いました!

児童生徒の声

先生の声

異年齢グループにより全校で自主学習ノートを交流



掲示による交流。他の学校のノートも紹介しています。



## ○学びを深め合う協同学習 ~ノート指導でさらに充実!~

先生の声

ノート指導と同じくらい焦点を当てたのが協同学習です。ノート指導でポイントやキーワード、自分の考えや友達の考えを書き留めたりまとめたりできるようになってきたことで、協同学習も充実してきました。自分の考えを語り他者の考えに学ぶ場となる協同学習は、個への手立てとしても有効です!

学習者主体の授業改善にもつながりました。

他の人の考えを聞くことができたり、自分の考えを聞いてもらえたりして、安心して発言できるようになりました。

児童生徒の声

## ○学びを確かなものにする振り返り

〈振り返りの視点の例〉・この学習で新たに身に付けた読み方や表現の効果は何ですか。・他の人と意見交流をすることで自分の考えはどう変わりましたか。

視点を明確に示した上で振り返りを書かせることで、単元で付けた力が定着したかどうかを把握することができ、指導と評価の一体化につながりました。

協同学習により深まった学びや個の変容が振り返りに表れ、児童生徒の学びに対する意欲や深まりを見取ることができました。

先生の声

アンケートより

学習を振り返ることで学んだ内容がよく理解できたり、自分に合った学習方法を確認できたりします。

	R1年度	R2年度
	80.4%	83.5%

## ○家庭教育支援アドバイザーの関わり

先生の声

児童生徒との関わり、我が子との関わりに悩んでおられる先生や保護者の方には、とにかく本人を認めて受け入れることをお勧めしました。その結果、生徒Aは授業中の不適切発言が減り、勉強に集中できるようになったことで将来の夢を語るようになりました。

## ○学校・家庭での取組で表れた個の変化

児童Bの経年比較

	H30 4年時	R1 5年時	R2 6年時
学習時間	36	49	65
読書時間	6	8	15
学習+読書時間	42	57	80

先生や学級の友達に認められて嬉しかったです!!